

# 子どもが体験した災害を伝える

@全国の熊本の仲間を心配する声から募金スタート@

2016年4月、それまで大きな地震が少ない地域と思われていた熊本県・大分県を中心に「熊本地震」が発生しました。その中でも最大震度7という大きな揺れが起こった益城町。活発に地域の環境保全活動をしている子どもエコクラブ「広西地球環境クラブ（広安西小学校環境委員会）」（以下、広西地球環境クラブ）がある町です。

全国各地で環境活動を行っている子どもたちが登録している子どもエコクラブでは、年1回全国の仲間が集って活動発表・交流する全国フェスティバルを開催しています。広西地球環境クラブは熊本県代表として何度も全国フェスティバルに参加しており、今回の熊本地震を報道で知った全国各地のクラブから、「広西地球環境クラブは無事なのか？」「熊本県・大分県のクラブの子どもたちは元気か？」「私たちに何かできることはないか？」という問い合わせが全国事務局に相次ぎました。

そこで、子どもエコクラブとして、被災地の子どもたちが今後も元気に環境活動を持続するための支援を目的とした「熊本地震使途限定募金」をスタート、全国のクラブなどからの募金を受け付けました。

@子どもが主体！子どもたちから発信する機会を@

募金を活用した支援内容として、子ども



災害から学ぼう～ぼくたち・わたしたちの体験メッセージBOOK

たちの自主的な活動に重きを置いていた子どもエコクラブならではの支援は何かと考えていた時、東日本大震災から6年が経って、被災地では大きな心の傷を抱えたまま成長し、当時は見られなかったストレス行動が今になって出てきている子どもがいるという話を聞きました。そこで、子どもたちが自分の体験災害を振り返り、地震で感じたこと・自分たちがどう災害に対応したか・子どもたちでもできたこと・こうしたら良かった！と言う思いを全国に発信するメッセージブックを作成することにしました。

当初は被災地に向き、ワークショップや自然体験プログラムをするという支援案もありましたが、それよりも、被災した子どもたちに「自分自身の声を発信することが全国の子どもエコクラブの仲間の防災意識の喚起に役立つのだ」と感じてもらうことが、何よりの子どもたちへの支援と考え

ました。

@怖さや不安を抱えながらも元気に笑顔！@

何度も起こる余震に、こわい！もうやだ！という怖さ、家族は？家はどうなったのだろうか？、水や食べ物はあるのか？、という不安は大人も子どもも一緒です。「おかあさんとギュッとした」という子ども（小1）も。

家族や友達と無事に会えたことにひとまず安心した後は、避難所などで少しでも楽しく過ごせるようにと、すすんで挨拶をしたり、笑顔でいるようにしたり、楽しい話をするようにしたり、子どもたちは大人に心配をかけないような心配りをみせています。また、水を汲んだり掃除を手伝ったり、自分たちでもできることを自分たちで見つけて動いていました。大人でも気が滅入りがちの避難生活の中で、子どもたちの笑顔や元気は多くの人を明るく前向きにしてくれたことと思います。大人と一緒にこの非常事態を乗り越えていこう！という気持ちが行動にでている子どもたちのたくましさ、私たちが見習うべきところがたくさんありました。

@災害を体験したからこそ、心に響く防災メッセージ@

今回災害を体験した子どもたちは言葉では表せないくらいとても怖い思いをしましたが、安全・防災の大切さ、日頃の備え

東 尚子 (あずま しょうこ)

公益財団法人日本環境協会子どもエコクラブ全国事務局



全国フェスティバルで発表する広西地球環境クラブ

の重要性、応援してくれる多くの方の温かさ、そして何よりも家族や友達がいるうれしさと普段の生活ができることのありがたさを実感したようです。

2017年3月に実施した全国フェスティバルに参加した広西地球環境クラブのメンバーの一人から、全国の仲間へ発信されたメッセージを紹介します。

「私は3年前この益城町に引っ越してきました。その前は茨城県に住んでいて、そこで東日本大震災を経験しました。私はその時車に乗っていましたが、タイヤがパンクしたように大きく揺れました。家に帰ると、電気、水道は止まってしまい、夜は真っ暗のご飯を食べたので怖くなって泣いてしまいました。そんな生活が何日かほど続きました。一方熊本では震度7を同じ

場所で2回観測しました。私はその震源地の益城町にいたのでとても大きく揺れ、とても怖くなりました。おじいちゃんの家へ避難しました。そこでもよく余震はおこっていました。

その後、多くの支援を受けて、とても心強くなりました。本当にありがたうございました。私は、東日本大震災を経験していたことから日常的に水の確保や日用品の保存をしていたおかげで生活に不便はなかったのですが、水道が出ない生活はとても不便で大変な思いをしました。私が経験して思ったことは、いつどこで災害がおこるか分かりません。パニックにならないように、避難場所の確認や日頃から準備をしておくことがとても大切だと思います。

@災害を乗り越えて、地域の環境を守る活動を継続@

何年も前から町の湧水を守る活動をしてきた広西地球環境クラブは、熊本地震をきっかけにあまり出なくなった湧水を復活させようと、2016年の夏から活動を再スタートさせました。

湧水の源である阿蘇は今どうなっているのか、地震の影響で湧水の場所がずれていないか、わずかに出ている湧水の水質はどうなっているのかなど、調査や地域の方々へのインタビューを重ねました。また、湧水が出る場所周辺の掃除をして地震で発生した泥をきれいに取り払うなど、地域の環境保全のために自分たちができることを行



湧水が出ている場所の清掃



地震後の湧水の様子を地域の方にインタビュー

## 子どもエコクラブ

幼児（3歳）から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることが目的としています。本メッセージブックを、ご希望の方にお送りしています。ぜひ全国事務局までご連絡ください。